

カメルーンの霊長類保護施設

2016, 3, 29

カメルーンには、霊長類（猿、ゴリラ）の保護施設が3か所にある。これまで霊長類が住んできた森（熱帯雨林とサバンナの森）が、森林伐採、道路の整備に伴い人間が入り、狭められてきている。もとも熱帯雨林には狩猟採集で生活しているピグミー族（カメルーンではバカ族）が住んでおり、霊長類を貴重なタンパク源としていたが、今は現金収入を得るため、捕獲されて食肉として市場でも売られている。カメルーンでは、猿、ゴリラの捕獲は禁止されているが、それでもブラコニエという密猟者が、暗躍している。親を殺されたチンパンジーの子供が、ペットとして飼われていることなどがあり、これらの霊長類を保護する施設が、90年代から作られている。これまでムフーとサナガヨンの2施設を見学してきたので、それらの様子を今回お伝えする。

1. 3つの施設の概略



ムフーの霊長類保護施設は、ヤウンデから車で45分南に行ったところにあるAPE(猿)Action AfricaというNGOが経営する施設。現在は400匹近くのチンパンジー、ゴリラ、マドリルなどの霊長類が、1044ヘクタールの広大な敷地で、それぞれの保護柵の中で生活している。この施設は、熱帯雨林やサバンナで違法に捕獲され取引されたり、ハンターによって母親が殺された子供、ペットとして飼育されていた霊長類を保護して、飼育する目的で、1996年設立された。当初は、イギリスのチャリティ団体のCWF(Cameroon Wildlife Aid Fund)が経営していたが、2008年にAPE Action AfricaというNPOとなった。

サナガヨンは、チンパンジーの保護施設としてアメリカ人獣医師 Shert Speede さんが1999年に設立し、2006年に森林動物省(MINFOF)と保護協定を結んでいる。71匹のチンパンジーをグループごとに森に保護策をめぐらして、飼育されている。カメルーンにはチンパンジーが2種類生息しており、この施設にその2種類（熱帯雨林に住む Central Chimpanzee とナイジェリアーカメルーンのサバンナ林に住む Nigeria-Cameroon Chimpanzee）が保護されている。

リンベは、元々動物園で有ったところを霊長類の保護施設として作り変えている。他の2施設のように自然の森はなく、檻の中で飼育されている。

2. ムフー施設

首都ヤウンデから国道を30分南下して、そこから脇道を15分走ったところにある。あまり観光施設のないヤウンデを訪れる人は、ほとんどこの施設を見てアフリカを実感している。広い保護柵の中で飼育

されている霊長類、特にゴリラを近くで見ることが出来る。森の中を2時間ほどかけて歩いて、各霊長類の施設を周ることができる。ここは非常に整っており、ガイドもしっかりと説明してくれる。10種類ほどの霊長類が見られた。ゴリラは見ている人の気を引くためか、大きな手で我々に土をふり掛けてきた。



ムフー施設の看板

ゴリラの若い雄

マンドリル

この柵には安全の為、電気が流れているが、嵐で木が倒れて電気が来なくなったときは、見学中止になったと言う。

2. サナガヨン施設

カメルーンの中央を流れ、大西洋に注いでいるサナガ川の上流にあるチンパンジーの保護施設。ヤウンデから350km離れている東部州の州都ベルトアから、さらに100kmほど行った森の中にある。サナガ川に沿って、アダマワ州のガウンデレまで行く鉄道が走っているが、そのベラボという駅から悪路を1時間半掛かってようやく着く。観光施設ではなく、チンパンジーの為に作られた施設。



サナガ川中流の雄大な流れ

チンパンジー施設の案内板

鉄橋と道路に掛かる木製の橋

この施設は、アメリカの獣医が作った施設なので、チンパンジーの為に手術が出来る医療設備がある。ここで人間の治療もできるとの事。(チンパンジーと人間のDNAは98%位が同じとされていて、人間の病気はチンパンジーにもかかる。マラリアも同じ。) ムフー施設よりチンパンジーの数は少ないが、大事に飼育されている。ナイジェリアーカメルーンチンパンジーは、全体で5000匹と絶滅が心配されている。



ナイジェリアーカメルーンチンパンジー セントラルチンパンジー ゴリラと似ている所がある